

平成14年10月3日

水産庁漁場資源課
独立行政法人水産総合研究センター
東北区水産研究所

北西太平洋サンマ長期漁況海況予報(漁期後半の見通し)

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所
がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2002(平成14)年10月～12月)

海況

- (1)沿岸の親潮は、ほぼ平年並で推移し、三陸南部から常磐近海では一時的に冷水域の影響がある。沖合の親潮は、平年並からやや南寄りで推移する。
- (2)金華山沖にある暖水塊は、北西へ移動する。
- (3)東北近海の黒潮は、平年並からやや南寄りで推移する。

漁況

- (1) 来遊量: 前年をやや下回る。
- (2) 漁期・漁場: 道東の漁場は10月末まで持続し、その後漁況は次第に低調になる。三陸・常磐沿岸の漁場形成はやや遅れて、散発的。常磐沿岸域は、親潮第2分枝からの来遊が期待出来る。
- (3) 魚体: 大型魚主体で推移するが、次第に中小型魚の割合が増加。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/gk14/14gkindex.htm>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当: 竹葉・狭間

住所: 〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話: 03-3502-8111(内線7376) 03-3501-5098(直通)

ファックス: 03-3592-0759

電子メール: toru_hazama@nm.maff.go.jp

水産総合研究センター東北区水産研究所企画連絡室

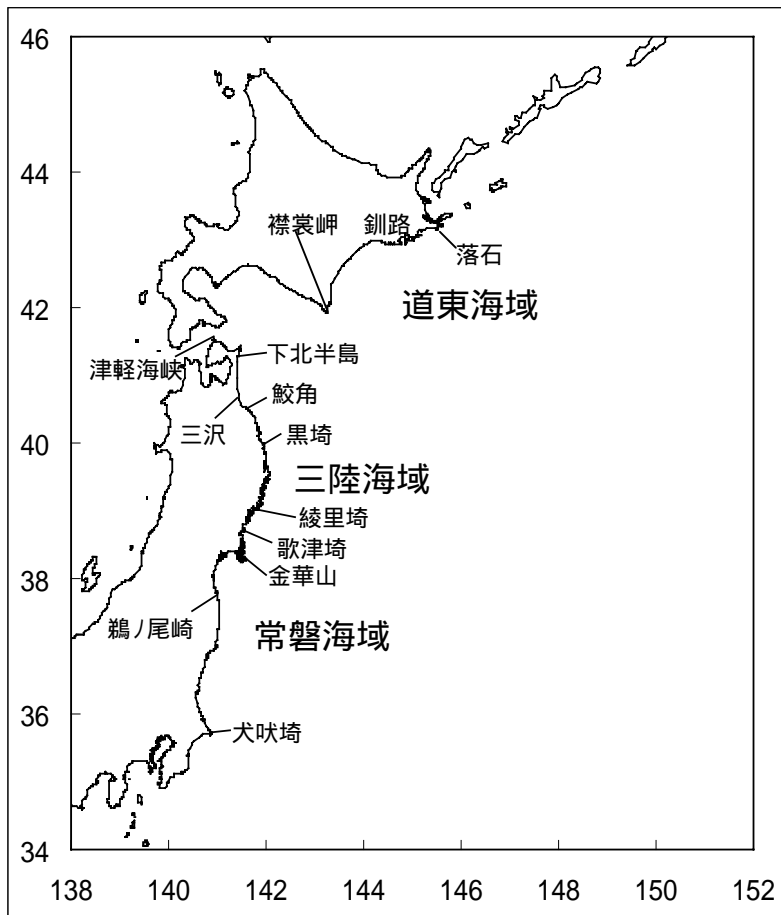
住所: 〒985-0001 塩釜市新浜町3-27-5

電話: 022-365-7196 ファックス: 022-367-1250

電子メール: kiren@myg.affrc.go.jp

参画機関

北海道立釧路水産試験場	水産庁漁場資源課 沿岸沖合課
北海道立網走水産試験場	
岩手県水産技術センター	独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所
宮城県水産研究開発センター	中央水産研究所 東北区水産研究所
宮城県産業経済部	
福島県水産試験場	
茨城県水産試験場	
千葉県水産研究センター	
(社)漁業情報サービスセンター	



参考 . 東北海区の地形図

平成14年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報 (漁期後半の見通し)

平成14年10月3日

独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所

東北海区海況予報

<<今後の見通し(2002年10～12月)>>

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並からやや南寄り(35°30'N～36°N)で推移する。
- (2)黒潮系暖水の北限位置は、近海で北寄りに推移する。
- (3)金華山沖の暖水塊は北西へ移動する。
- (4)親潮第1分枝の張り出しは、平年並(41°N付近)で推移する。
親潮第2分枝の張り出しは、平年並からやや南寄り(38°30'N付近まで)で推移する。
三陸南部から常磐近海では、一時的に冷水域の影響がある。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並(143°E付近)である。

〈海況の経過(2002年1月～2002年8月)の特徴〉

- ・ 近海黒潮の北限位置は、平年並で推移した。
- ・ 黒埼沖と常磐沖に暖水塊が存在した。
- ・ 6月以降、三陸沿岸に冷水域が見られ、8月には広範囲に分布した。
- ・ 親潮第1分枝の南限は、41°N付近(平年並～北偏)で停滞していた。
- ・ 一時的に常磐沿岸に暖水塊からの暖水波及があった。
- ・ 表面水温は、北海道沿岸域と沖合で平年より低め～高め、東北沿岸は平年並で推移した。

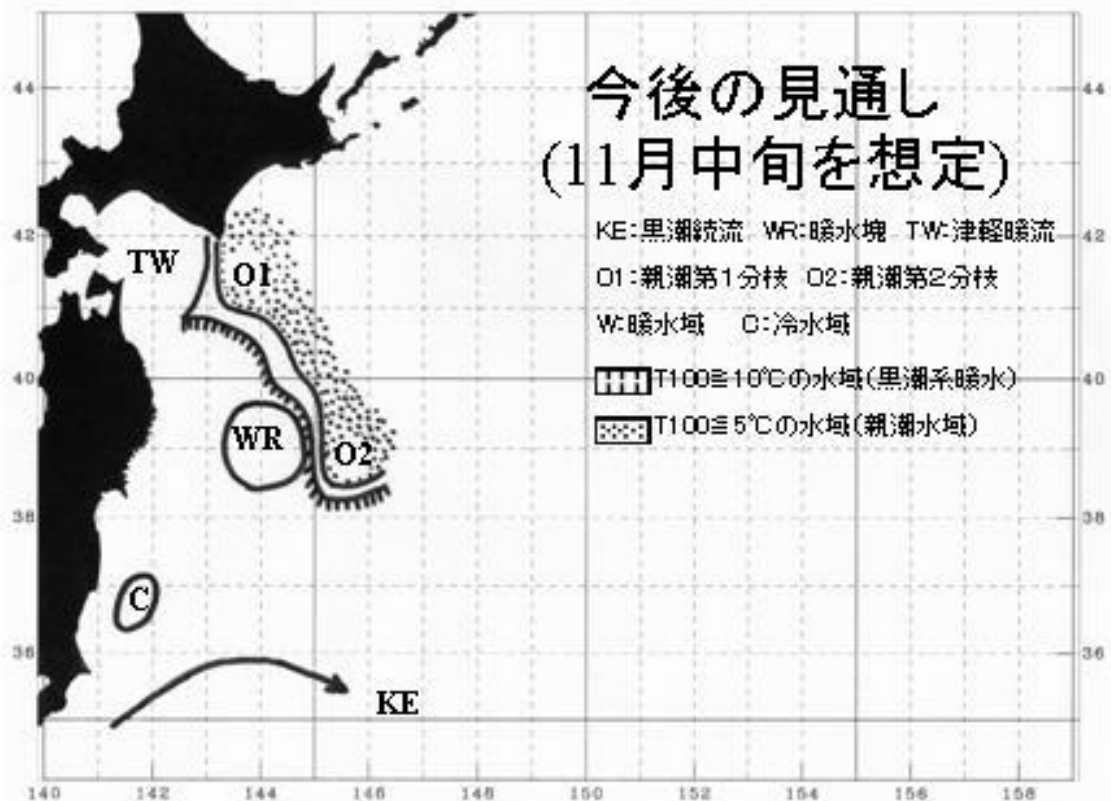
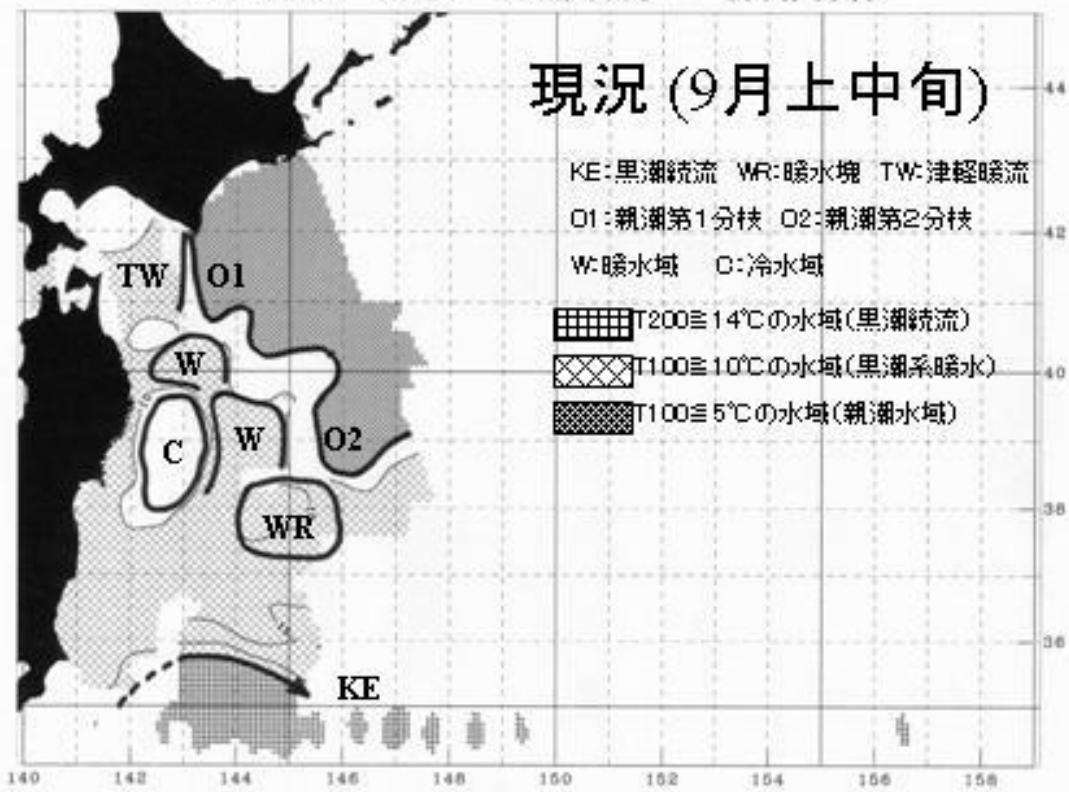
〈現況(2002年9月上中旬)の特徴〉

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並み(35°50'N)。
- (2)黒潮系暖水の北への張り出しは、近海で北寄り。
- (3)暖水塊が、金華山の東約300km(38°N,145°10'E)にある。
8月に鮫角の東約200km沖にあった暖水塊は暖水域となった。
暖水域が、歌津埼の東約200kmにある。
- (4)親潮第1分枝の張り出しは、ほぼ平年並(40°40'N)。
親潮第2分枝の張り出しは、やや南寄り(38°30'N)。
冷水域が、三陸沿岸にある。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、ほぼ平年並(143°E)。

注：現況および今後の見通しは図を参照のこと。

「近海」は146°E以西、「沖合」は146°E以东を表す。

SCHEMATIC DATE: 2002/0901 - 2002/0925



北西太平洋サンマ長期漁況予報(漁期後半の見通し)

今後の見通し(2002(平成14)年10月～12月)

対象海域:道東～三陸～常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:サンマ北西太平洋群

(1)来遊量

前年をやや下回る。

(2)漁期・漁場

道東の漁場は10月末まで持続し、その後漁況は次第に低調になる。三陸・常磐沿岸の漁場形成はやや遅れて、散発的になるが、常磐沿岸域は、親潮第2分枝からの来遊が期待出来る。

(3)魚体

大型魚主体で推移するが、次第に中小型魚の割合が増加する。

漁況の経過(2002(平成14)年7月～9月)および見通しについての説明

1. 漁況の経過(8月以降)

8月1日から10トン未満棒受網漁船がロシア200海里内で探索したが、魚群を発見できず道東沖合(釧路～落石)で操業した。漁況は昨年と比較して不振で、魚体は中小型魚主体であった。8月10日に19トン未満船がロシア200海里内で魚群探索を行ったが、魚群を発見できず、道東沖で操業した。漁況はやや上向いたが、安定せず、昨年と比べると不振であった。魚体は8月上旬と同様中小型魚が多かった。8月下旬に入り、大型船が出漁し、一部は色丹島沖で操業したが、漁況は低調であった。主漁場は道東沖の広い範囲(襟裳岬南東沖～落石沖)に形成された。漁況は上向いてきたが、やや不安定で好不漁の波が大きかった。魚体は大型魚の割合が増加してきた。

9月上旬には、漁場は、引き続き道東沖の広い範囲(襟裳岬南東沖～落石沖)に形成されたが、漁況はやや不振で、漁獲量は伸び悩んだ。魚体は大型魚主体となった。9月中旬にも漁場は道東沖の広い範囲にでき、南端は三陸北部沖合に達した。漁況は上向き、魚体は大型魚主体であった。9月下旬に入っても、漁場は道東沖の広い範囲に形成されたが、三陸北部沖合の漁場は無くなった。漁況は好不漁の波が激しかった。魚体は大型魚主体であった。9月30日現在のサンマ棒受網の累計漁獲量は約9万4千トン(前年同期比約68%)であった。

2. 調査船調査結果

- (1) 東北区水産研究所、北海道立釧路水産試験場、岩手県水産試験場、宮城県産業経済部、福島県水産試験場、茨城県水産試験場、千葉県水産研究センターが調査船8隻を用いて分布調査、漁場調査、及び目視調査を行った。
- (2) 東北水研用船の北鳳丸は、9月4～29日まで中層トロールと流し網による分布調査を行い、道東から三陸北部沖合にかけての海域で大量のサンマを漁獲した。また、親潮第2分枝先端(金華山沖約150海里)付近でもかなりのサンマを漁獲した。サンマの漁獲分布は昨年同期を上回った。
- (3) 釧路水試調査船北辰丸は、9月4～11日に道東海域で流し網による分布調査を行い、昨年同期の調査を上回るサンマを漁獲した。
- (4) 岩手県水産技術センター岩手丸、宮城県産業経済部所属新宮城丸、茨城県水産試験場水戸丸・千葉県水産試験場千葉丸・房総丸は漁場調査を行い、生物標本多数を採集した。特に、漁期後半の見通しを立てる上で重要な情報として、水戸丸が9月26日夜北緯40度43分、鯨角沖約

160海里(東経145度13分)付近(親潮第2分枝)において棒受網操業5回で19トン(大型魚約36%)を漁獲したことが上げられる。

(5) 福島県水産試験場いわき丸は三陸沿岸で目視調査を行った。

3. 今後の見通しの説明

(1)来遊量

棒受網漁業による漁獲量は、9月末現在で昨年同期比68%となっており、CPUE(1操業当たり漁獲量)も昨年より低めに経過しているため、漁場域への来遊資源量は昨年をやや下回っているものと思われる。一方、調査船(北鳳丸・北辰丸)による調査結果では、沖合域の漁獲分布は昨年より高い。また、親潮第2分枝先端部にも大量の魚群が見られた。このことは、北海道・東北東方海域全体に來遊しているサンマの資源量は昨年同様高い水準であるが、主な漁場となる沿岸に近い海域に來遊しているものが昨年より少ないことを示していると思われる。本年夏季の千島列島付近の表面水温は低く経過したため、サンマの千島列島近海及び以北への北上は抑制されたと推測される。このような場合、親潮第2分枝を南下する魚群が増加し、第1分枝を南下する魚群が減少すると考えられている。

(2)漁期・漁場

道東沖の漁場については、9月下旬の魚体が依然として大型魚主体であることなどから、しばらくは持続するものと判断した。海況予報では、親潮第1分枝の南への張り出しが平年並みで、親潮第2分枝の張り出しがやや南寄りとなること、三陸近海に勢力の強い暖水塊があって北西に移動することが予測されている。これは、親潮第1分枝を南下する魚群が暖水塊によって阻まれ易い状態にある反面、親潮第2分枝を南下する魚群は比較的南下し易いことを示している。したがって、三陸沿岸域の漁場形成条件は良くないと判断され、形成時期も遅れ、漁場形成も不安定であろう。第2分枝がやや南まで張り出すこと及び常磐沿岸に冷水域が残ることから、常磐海域は親潮第2分枝からの来遊が期待できるだろう。

(3)魚体

6・7月に行われた漁期前調査で大型魚の資源量が多かったこと、漁況経過でも9月下旬の時点で、大型魚の漁獲が多いことなどから、今後も大型魚主体の漁獲が続くと思われる。しかしながら、例年の傾向として、大型魚は成熟とともに南方の産卵場へ去ることから、魚体組成は次第に中小型魚の割合が増加するであろう。

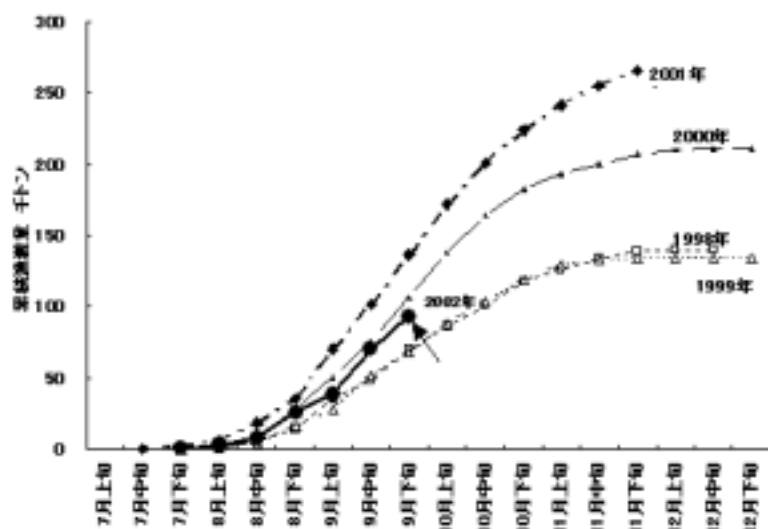


図1. 過去4年間の旬別異種漁獲量の推移と2002年度漁期の比較

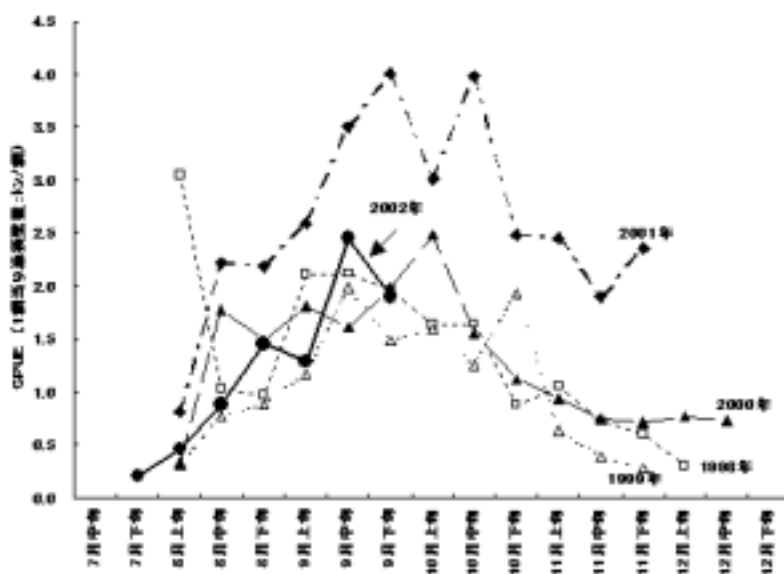


図2. 過去4年間の旬別CPUE (1操業当たり漁獲重量ton/網)の推移と2002年漁期の比較

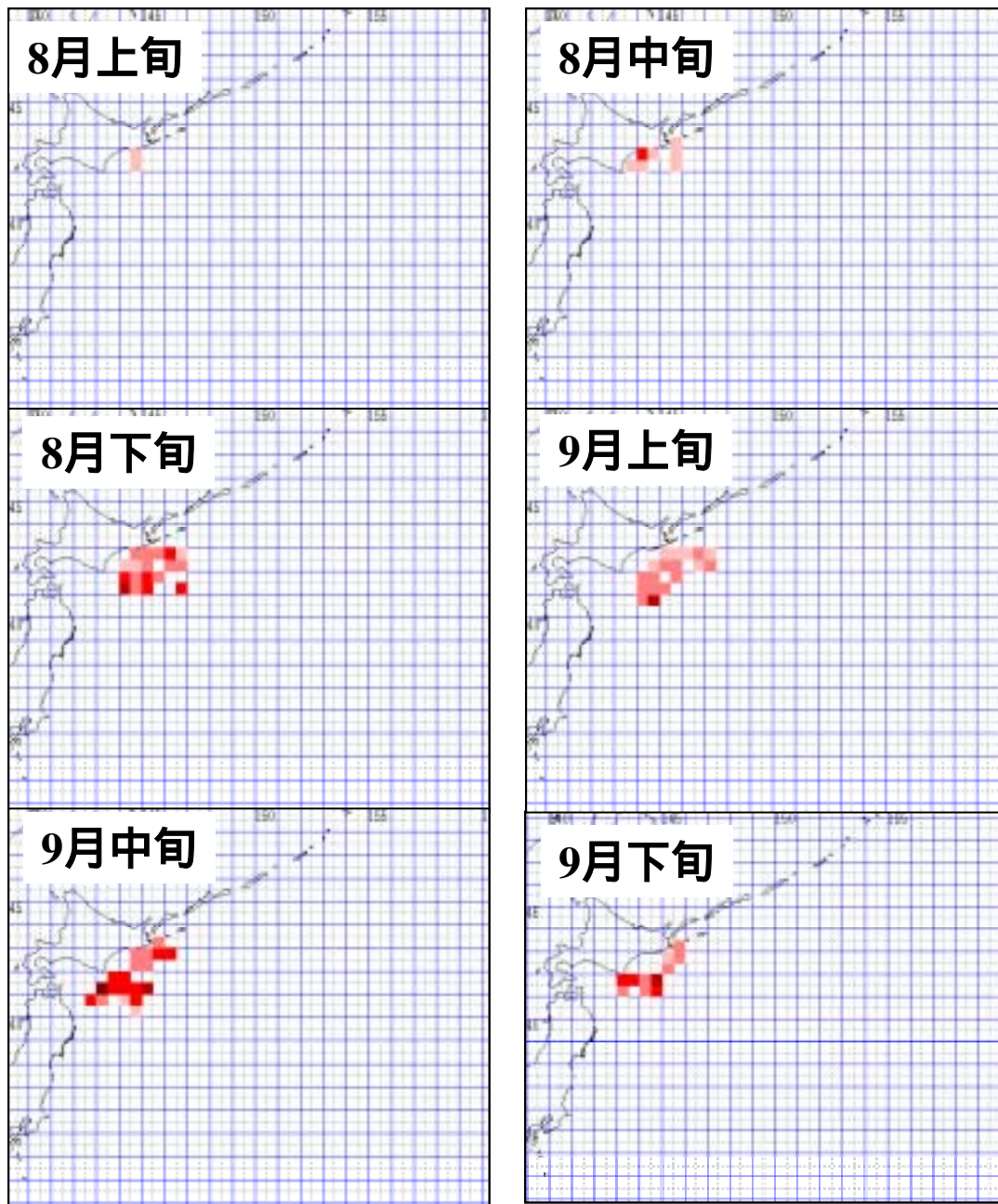


図3. 2002年漁期前半の棒受網漁船のCPUE分布(30分柵目の平均)の推移

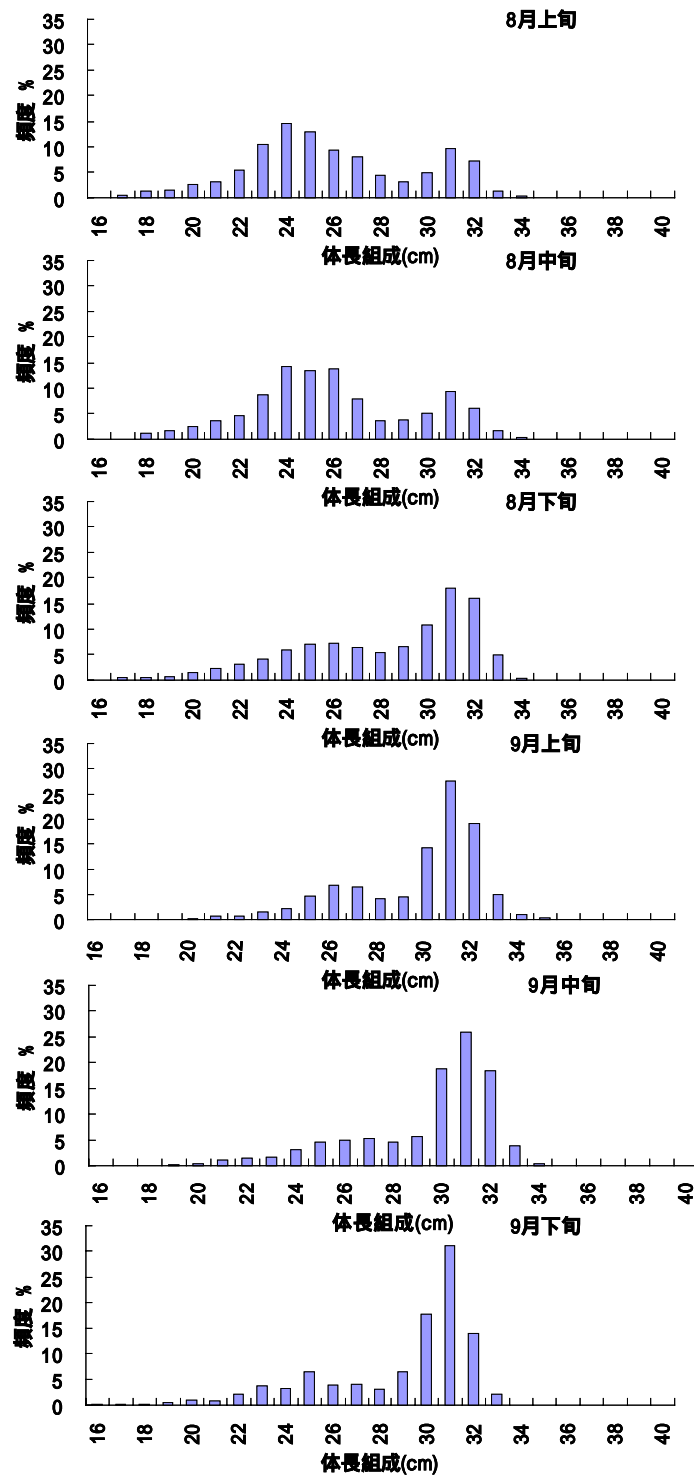
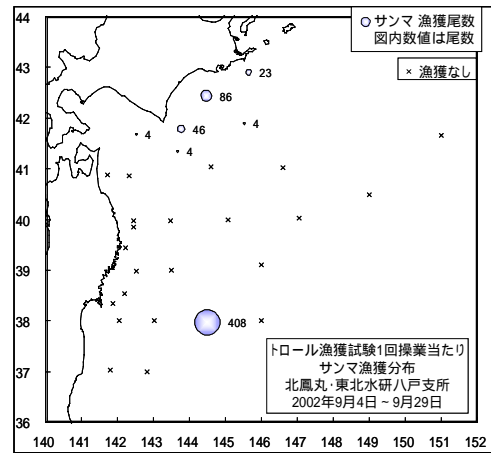
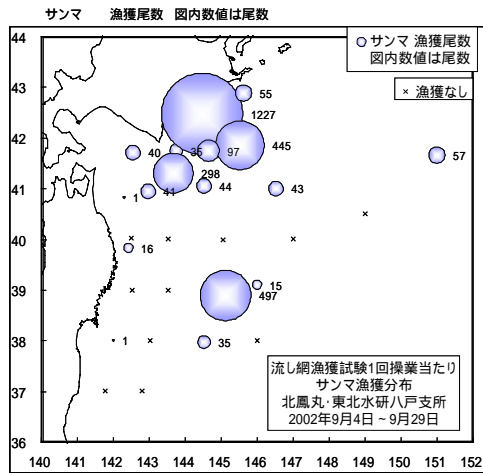


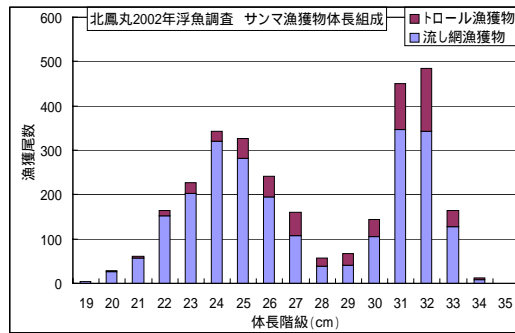
図4. 2002年漁期の旬別肉体長組成(cm)の推移

2002年

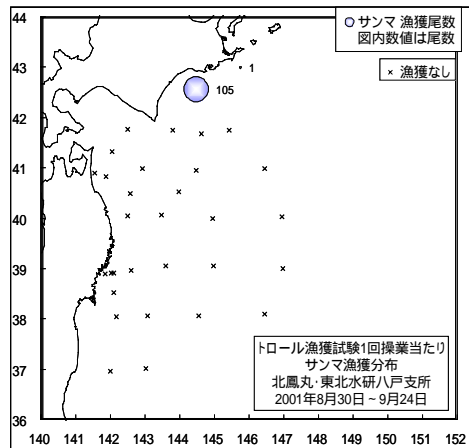
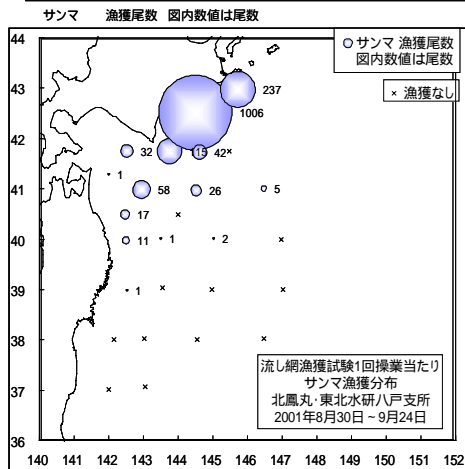


20,26,30,33,37,43,48,55,63,72,106,121mmを各1反、115mmを4反、計16反を連結した流し網を、夜間表層に約2時間漫漉した。

トロールは網口30×30m程度、夜間表層5ノット30分曳



2001年



20,26,30,33,37,43,48,55,63,72,106,121mmを各1反、112mmを4反、計16反を連結した流し網を、夜間表層に約2時間漫漉した。

トロールは網口30×30m程度、夜間表層5ノット30分曳

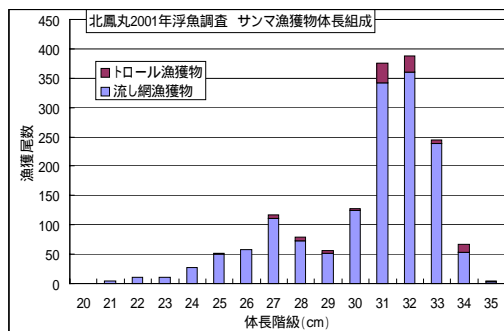


図5.北鳳丸による浮魚分布調査によるサンマの漁獲分布と体長組成。2001年と2002年の比較

別表. 漁期前半の調査船による漁獲試験一覧				
調査機関	調査船	調査期間	漁具	調査海域
東北区水産研究所	北鳳丸	9.4-9.29	中層トロール, 流し網	道東・三陸・常 盤沖合
北海道立釧路水産試験場	北辰丸	9.04-9.11	流し網	道東
岩手県水産技術センター	岩手丸	9.9-9.12	棒受網	三陸・道東
		9.18-9.20		
		9.24-9.26		
宮城県産業経済部	新宮城丸	8.21-8.28	棒受網	三陸・道東
		8.28-8.31		
		8.31-9.03		
		9.06-9.13		
		9.24-9.28		
		9.28-10.01		
福島県水産試験場	いわき丸	9.24-9.25	目視	三陸
茨城県水産試験場	水戸丸	8.22-8.9, 9.19-9.23, 9.25-	棒受網	三陸・道東
千葉県水産研究センター	房総丸	7.26-8.12, 8.21-9.6, 9.13-9.29	棒受網	三陸・道東
千葉県水産研究センター	千葉丸	8.11-8.29, 9.2-9.18, 9.24-	棒受網	三陸・道東